

全大腸内視鏡検査の実施について

1. 検査の目的

【健康づくり推進課】 R7 年度予算:39,200 千円

大腸がんによる死亡者を減らし、一人でも多くの市民の命を守る！

2. 大腸がんの現状

- 本市の4人に1人はがん(悪性新生物)で死亡(R4年 24.8%)しており、死因割合としては最も多い要因となっている。
- 本市における大腸がんによる死亡者数は年間250人を超えており(R4年256人)、がんによる死因の中では、肺がん (R4年410人)に次いで多い。
- 大腸がんは50歳から増え始め、55～59歳の年齢層で増加する。
- 大腸がんはポリープからゆっくり成長しがんになるため、早期発見することで治療可能であるが、市の大腸がん検診(便潜血検査)の受診率は5%程度であり、民間の調査によると、全大腸内視鏡検査の受検歴のない人は65.7%となっている。

※熊本市の55～59歳の人口は約4万6千人→同年齢層で全大腸内視鏡検査の受検歴がない人の想定数は約3万人

3. 全大腸内視鏡検査効果

- 全大腸内視鏡検査を1回受けることで、後10年間の大腸がん罹患率、死亡率の減少効果が持続するエビデンスがある。
- 一度全大腸内視鏡検査を受けることで、大腸内の状態から、各個人の大腸がんの罹患しやすさが分かる。罹患しやすさによって、その後の検診プランは主治医により管理され、大腸がん罹患が減る。

4. 対象者

熊本市に住民票のある55～59歳の方(ただし50歳以降全大腸内視鏡検査未受検の方)

【R7年度1,000人】※がんを強く疑うような症状(血便、体重減少等)がある方は、保険診療対応となる場合がある。

5. 検査費用

無料

6. 受検の流れ



問診申込開始9月24日 ⇒ 問診開始10月1日

※9月24日実施医療機関一覧(71機関)市HP公開 ※問診と検査は原則別日

※本事業の対象でない方にも、大腸がん検診(便潜血検査)をはじめとした熊本市の5つのがん検診の利用を促進していく。